

「指数の和と直線」

僕が存在するのは
ひとりの男と
ひとりの女がいたからである
この男女を「僕からみた1代前の世代」と呼ぶ

その男も
その女も
それぞれ
ひとりの男と
ひとりの女がいたから存在した
これらの男女を「僕からみた2代前の世代」と呼ぶ

僕からみた世代をさかのぼる
ふたつの配偶子がめぐりあい 接合し 新たな^{いのち}生命となる
この方法を初めて成功させた世代を「僕からみたn代前の世代」と呼ぶ

配偶子接合を行う以前は世代として数えない
なぜなら
それは分裂によって自分自身を増やしていただくだけだからである
分裂の際に分配されるゲノムに相違が生じ
遺伝的に異なる個体が生まれることがあったとしても
そこには男と女の関係がないからである

僕が存在するのは
1代前の世代 2^1 個体から
n 第前の世代 2^n 個体までがいたからである
その総数 N は次の式で表せる

$$N = 2^1 + 2^2 + 2^3 + 2^4 + \dots + 2^n \\ = 2^{n-1} - 2$$

N の半数 $\frac{N}{2}$ 回の配偶子のめぐりあいがあり 接合があった

網の目のように絡み合った膨大な数の^{いのち}生命の営みがあった

僕はあなたを見つめる

これが僕の配偶子にとっての $\frac{N}{2}+1$ 回目の出会いになるのだろうと

僕の配偶子とあなたの配偶子が接合することで 2^n+1 世代目が生じるのだろうと
 2^n+1 世代目の誕生は N 回の配偶子のめぐりあいの結果となるのだろうと

あなたが僕を見つめる

何のはからいもないまっすぐな視線で

あなたにはひとりの母があった

その母にもひとりの母があった

母の母をたどっていくと

地球に生まれた最初の

たったひとつの^{いのち}生命にたどりつく

一直線につながる^{いのち}生命

あなたのまっすぐな視線には

母性とも呼べる 強さと やさしさと ぬくもりがあった

あなたの視線は僕にはまぶしすぎた

だから僕は

あなたから目を背けてしまったのです